

令和元年度 事業報告

I 概要

わが国における高齢化率(65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合)は、令和元年10月現在で 28.4%となり、労働力人口に占める65歳以上の割合は 13.4%という状況であります。

このように急速に進む少子高齢化のもと、国は企業への継続雇用年齢の引き上げや外国人労働者の受け入れ促進など労働力不足対策に加え、元気で意欲にあふれ、豊かな経験と知恵を持っている高齢者が働くことができる環境を整備し、生涯現役で活躍できる社会を創ることの重要性を指摘しており、シルバー人材センターへの社会的期待は高まっています。

こうした中、当シルバー人材センターでは会員の社会参加、社会貢献、生きがいの充実を図るとともに、地域社会へのニーズに応えるために、会員増強と就業機会の確保を積極的に行いました。

その結果、請負契約では前年比 1%の微増でしたが、派遣事業では受注件数で167件の増加、契約金額で12%の増加と堅調な拡大をしており、会員数においても43名の増加となるなど、着実に事業の拡大を図ることができました。

令和元年度の事業報告の詳細につきましては、以下のとおりです。

II 活動報告

(1) 就業機会の確保と組織的提供事業

「就労意欲のある会員の就労支援」の理念の基に、会員の就業ニーズと地域企業等のニーズを把握・分析し、就業機会の拡大に向けた取り組みを行いました。

- 会員の多様な就業ニーズに応えるため、請負就業に加えて派遣就業や職業紹介などによる多様な働き方を提案するとともに、発注先に対してもチラシ等によるシルバー事業の紹介、過去のお客様への訪問、電話による就業機会の掘り起こしなどを行い、就業機会の拡大を図りました。
- 会員の就業ニーズに応じた就業情報の提供を行うため、ホームページや毎月発行の会報誌を充実させるとともに、就業相談を随時行い就業機会の拡大を図りました。

(2) 指定管理事業

「生きがいセンター」の指定管理者として、利用者の立場に立った管理運営に努め、市民の豊かな人づくりのための生涯学習の場として、また趣味の活動などを通じて積極的に社会参加をしていただくための場として、人づくり・地域づくりの拠点としての役割を果たしました。

- 「生きがいセンター」の指定管理者として、令和2年度から令和6年度までの指定管理者指定申請を行い、引き続き指定管理者として認可をされました。

- 館内ロビーでは、季節に合わせて、施設利用者やシルバー会員による趣味の作品の展示、ロビーコンサートなどを実施し、地域のみなさんに交流の機会を提供するとともに積極的に情報提供を行いました。
- 地域密着イベントとして「生きがいセンターまつり」を開催し、施設利用者として施設入居者であるオレンジホーム、あすなろ教室およびシルバー人材センターの会員、役職員の共同開催で、地域住民とのコミュニケーションを図り、地域づくりに貢献しました。
- 「生きがいセンター」の運営の改善を図るため、利用者に対して利用に関するアンケート調査を実施し、利用環境の改善に努めました。

(3) 有料職業紹介事業

企業と会員との就業マッチングの際、本人が直接雇用を希望する場合や、直接雇用が適切であると判断される業務については積極的に有料職業紹介を活用しました。

- 企業訪問、就業開拓などにより、企業の求人情報を幅広く収集し、直接雇用を望む会員への情報提供を行うことで、4件の職業紹介を行いました。

(4) 労働者派遣事業

発注者からの指揮命令が発生する等の理由で、請負に馴染まない職種や職場に対して「適正就業ガイドライン」の遵守を徹底するとともに就業の拡大を図り、労働者派遣事業は契約金額で前年度比12%の増加となりました。

- 地域の人材ニーズと会員の就業ニーズとのマッチングを図るために、派遣受入事業所の開拓を推進し、15件の新規受注を獲得しました。
- 発注先企業ならびにセンター職員に対して「適正就業ガイドライン」の周知徹底を行い、就業の適正化を図るとともに、派遣事業の拡大を推進しました。
- 改正労働者派遣法に適切に対応するため、全派遣先企業と派遣先均等均衡方式による契約を締結し、会員の労働環境の整備を行いました。

(5) 知識及び技能の付与を目的とした講習の実施事業

会員が、希望する業務分野の知識の向上、技能のスキルアップを図り、就業の機会に繋げていくことを目的に、各種の研修および講習会を開催しました。

- 県シルバー人材センター連合会の主催する高齢者活躍人材確保育成事業を活用し、一般市民向けの「園芸講習」を幸田町シルバー人材センターとの合同企画で開催しました。
- センター独自の会員向け公開講座として3回、女性のための生涯学習講座として3回開講し、会員の生きがいの充実、社会参加の促進を図りました。

(6) 調査研究事業

事業運営の向上、拡大を図るため、先進シルバーへの視察研修による事例研究を積極的に行いました。

- 女性会員の増強、活性化のため「女性部会」の立上げ検討準備として、戸田市シルバー人材センターおよび豊川市シルバー人材センターを視察訪問し、各センターの活動状況の実態と活動方法について教示していただきました。
- 未就業会員の实態調査を就業相談会等で積極的に行い、未就業理由の分析と適切な対応策を講じることで、未就業会員の減少に努めました。
- 会員の就業満足度、発注者の仕事ぶりへの評価について意識調査を行い、会員の半数近い289名と、発注者220先からのアンケート結果を取りまとめ、事務所受付に備え置きました。

(7) 相談事業

センターの円滑な事業運営と活性化を図るため、入会希望の相談、既存会員の就労に関する相談会などを定期的に、また随時開催しました。

- 入会を希望する高齢者を対象に、毎月第2火曜日に入会説明会を、毎月第4火曜日に会員証交付会を開催しました。また、その他、女性限定や地域限定の説明会や、カート整理、図書配達業務など業種を特定した入会説明会も8回ほど開催し、様々な切り口で入会希望者との相談の場を設けました。
- 未就業会員には随時電話や面接相談等により お仕事の紹介を行い、情報の提供と就業機会の確保に努めました。
- 発注希望者からの相談については、ホームページの充実、チラシ等の広告媒体の配布などにより、シルバー事業の周知をしました。

(8) 安全・適正就業推進事業

シルバー会員の安全かつ適正な就業を徹底するため、安全意識の向上、作業中の事故防止、就業途中の交通事故防止などの啓発を図るとともに、「適正就業ガイドライン」の周知を行い就業形態の適正化を推進しました。

- 安全・適正就業意識の普及啓発のため、当センターでの事故発生状況や、愛知県シルバー人材センター連合会の発信する「週間事故報告」を毎月の衛生委員会で紹介するとともに、剪定班、草刈り・草取り班の班長会議の機会に、事故防止策の検討や安全作業の啓発を行いました。また、全会員に対して安全標語の募集キャンペーンを実施して、安全意識の向上を図りました。
- 剪定作業での転落事故防止、草刈り作業での飛び石事故防止、派遣就労での危険作業防止のため、各分野ごとに安全就業パトロールを実施し、安全意識の啓発と注意喚起を行いました。

(9) センターの活動等について周知を図る事業

シルバー人材センター事業の理念、活動の普及啓発をするため、会員の増強、活動のPR、ホームページの充実、地域イベント等への積極的な参加により、シルバー事業への理解と協力を地域住民ならびに関係者に広く周知しました。

- 会員拡大のため、毎月第2火曜日に「会員入会説明会」を開催するほか、女性限定の説明会や地区別出張入会説明会、業種を特定した入会説明会など、対象者別、地域別、業種別の入会キャンペーンも積極的に実施しました。
- 会員増強のため、現会員の配偶者やお友達を対象に「会員紹介キャンペーン」を1月から3月までの3か月間に亘り実施しました。
- サークル活動の活性化、ゴールド会員の懇親会などを実施し、就労以外でも楽しく生きがいを見つけられるイベントを開催しました。
ただし、今年度は新型コロナウイルスの影響で長寿お祝い会は開催できませんでした。
- センター事業を広く周知するために、地域住民との交流の場となる「生きがいセンターまつり」の開催や、生きがいセンター内でミニコンサートや写真展などのロビーイベントを実施し、積極的にシルバー人材センターの活動をPRしました。
- ホームページを充実し、「いきいきだより」、「事務局だより」などの会報誌の掲載から、お仕事情報など幅広く情報発信を行いました。
また、地域イベントの「ごりやく市」への積極的な出店により、センター事業の内容や活動状況について広く地域住民に広報活動を行いました。

(10) その他センターの目的を達成するために必要な事業

シルバー人材センターが目的とする、高齢者の社会貢献活動を通じた健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉の向上と活性化に貢献するため、蒲郡市からの委託事業である「高齢者介護支援ボランティア事業」を積極的に推進しました。

- 「高齢者介護支援ボランティア事業(まごころDEちよいボラ)」の推進のため、年2回の技術研修を行い知識と接遇の向上を図るとともに、会員の増強と活動の活性化を図りました。

令和元年度は16名の新規会員登録があり、年度末会員数は109名となりました。ただし、活動ポイントは1,323ポイントと、新型コロナウイルスの影響で2月3月の活動が低調であったため前年比15%の減少となりました。